


海外派遣研究助成事業による研究の成果

研究者氏名	小木曾 聡 
所属機関	名古屋大学医学部附属病院 移植外科
・研究に従事した外国の研究機関名 ・参加した国際学会・会議名	the First World Congress of International Laparoscopic Liver Society (国際腹腔鏡肝臓外科学会)
渡航期間	自 平成 29 年 7 月 5 日 至 平成 29 年 7 月 9 日
・研究内容 ・国際学会・会議内容	国際学会において、腹腔鏡を用いた肝臓外科手術の手技・適応・普及・利点および欠点について、議論を行った。
<p>研究成果 ( 要約 : 800 字 )</p> <p>この度、がん研究振興財団より平成 29 年度海外派遣研究助成金のご支援をいただき、パリで開催された、第一回の World Congress of International Laparoscopic Liver Society に参加させていただいた。学会では、肝細胞癌に対する腹腔鏡下肝切除術とラジオ波焼灼術の前任施設における治療成績を提示し、その比較をとおして、腹腔鏡下肝切除術の利点と欠点、および肝細胞癌治療におけるその役割について議論を行った。また、今後の腹腔鏡下肝切除術の技術的な発展と適応拡大について、安全性向上を目指した手技の標準化と普及について、さらには腫瘍学的なメリットについて、当該分野における海外の指導者層と議論を深めることが出来た。その中で、今回の学会に参加させていただいたことによる最大の収穫の 1 つは、彼らがいま何に関心を持ち、何を重要と考えているのか、生の意見を聞くことが出来たことであった。欧米各国や韓国・中国といったアジア諸国と日本とでは、医療体制（医師・外科医の役割や研修制度、症例の集約化、など）や医療保険制度、手術や腫瘍学治療に対する考え方などに違いがあり、その結果として目指すものや重視される点も異なってくるのは当然ともいえる。その違いを認識することで、日本では何が強みであり何が不利であるのか、海外の研究者と議論をすべき点とそうではない点などが明らかになり、今後の研究や国際交流がより効率的に行えるようになるであろうと思われる。今後の研究協力や人材交流についても建設的な相談が出来ており、非常に有意義な時間とすることが出来た。当助成をいただけたことに、この場をお借りしてお礼を申し上げたいと思う。</p>	